文化生活部 kurashi@373news.com
Tel:099-813-5133 Fax:099-813-5180

かごしま ドクター便り

認知症

覚えられないのが特徴

鹿児島大学病院
神経科精神科講師
福原 竜治

「あの人、名前なんだっけ?」。知っていたはずの名前が出てこないという経験は誰にでもあるのではないでしょうか。そういったことが度々あると、もしかして認知症の始まりなんじゃないか、いや年齢のせいに違いない。そんな不安な気持ちになることもあるかもしれません。

年齢を重ねると、いわゆる「ど忘れ」が増えてきます。例えば「昨日会って話した人の名前がとっさに出てこない。その後ふとした時に思い出す」というものです。

記憶には①記銘（覚える）②保持③想起（思い出す）—の3段階のプロセスがあります。加齢による「ど忘れ」は記憶の取り出しが悪いだけで、何かの拍子で思い出すことができます。

しかし認知症で起こる〝物忘れ〟は異なります。最初の段階の「記銘」ができない。すなわち忘れるのではなく覚えることができないので、きっかけがあっても思い出すことができません。また認知症は、例えば食事をしたことなど、自分の体験そのものを覚えていないという特徴もあります。

認知症はさまざまな脳の病気によって起こります。多いのは、アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症です。近年はレビー小体型認知症を加え、三大認知症と言われています。

早期の診断・治療が重要で、認知症を引き起こしている病気を見極め、早期に治療を始めることで、進行を遅らせたり、症状を緩和できたりする可能性があります。さらに適切な介護サービスに早めにつなげることや、軽症のうちに本人が家族と今後の生活について考えることもできます。また認知症の症状の正しい理解は、介護者の負担感を軽減すると言われています。認知症かなと心配な時はかかりつけ医や精神科などの医療機関、近くの認知症疾患医療センターにご相談ください。